

【FISA11】

## 126. プロジェクトマネジメントから、プロダクトマネジメントの時代へ

## 1. 研修要領

・ITSS	3-4
・研修実施日	2025年1月16日(木)～2025年1月17日(金)
・研修実施時間・日数	9:30 ～ 16:30 (6時間/日)/ 昼休憩 12:30 ～ 13:30 (60分)
・研修会場	福岡ソフトウェアセンター 福岡研修室
・研修受講料(税別・テキスト代込み)	56,700円(FISA会員) / 63,000円(FISA非会員)

## 2. 対象者

DX(デジタルトランスフォーメーション)の時代に、サービスデザインを含め、プロダクトマネジメント視点を期待されるプロジェクトリーダー・これから関わるあらゆるメンバ  
プロジェクトマネジメントの基礎知識を有していることが望ましい

## 3. カリキュラムの概要

これから「変化への対応」を求められる時代において、ビジネス価値を出しつつけることが、期待されます。プロジェクトの完了がビジネスの完了ではなく、本来目指すプロダクト(プロジェクト成果物)の価値を考えます。  
今後、開発・運用の区別なく、提供する価値を生むためのプラン、進め方を習得します。

## 4. 使用教材

オリジナルテキスト

## 5. 到達目標

・プロジェクトマネジメントとプロダクトマネジメントの双方を意識して、「プロダクト」の立案ができるようになる。

## 6. カリキュラムの詳細

2日間(12時間)

	科目	時間	科目の内容
1 日 目	1. DX時代の価値を考える 2. DX時代のプロダクトマネジメント	3.0h	(はじめに) ◆DX(デジタルトランスフォーメーション)時代のビジネスモデル ◆Project to Productの時代～なぜプロダクトマネジメントが必要か ◆DX時代のプロダクトマネジメントの概念
	3. プロジェクトマネジメントとプロダクトマネジメント	3.0h	◆プロダクトマネジメントとプロジェクトマネジメントの相違 ◆プロダクトの企画～何から始めるか <実践ワークショップ: プロダクトの企画>
2 日 目	4. 従来型のプロジェクトとの相違	3.0h	◆プロダクトマネジメントの文化と組織 ◆最初から完成品を目指さない ◆開発と運用は分けない
	5. プロダクトマネージャを目指すには	3.0h	◆顧客視点 ◆エンドツーエンドで考える ◆開発チームとの認識合わせ <実践ワークショップ: プロダクト企画のレビュー>
計		12.0Hr	

※最低開催人数は4名とさせていただきます。中止の場合は、開催日の2週間前までにご連絡させていただきます。

※改善のためカリキュラムは予告なく変更させていただくことがあります。